



NPO法人
子ども家庭リソースセンター



2017年
11月号

おたより

- 「本当にそれでいい？」と問い直しをわすれないように・・・ P 1
- 児童館『遊びマルシェ』に出店・・・ P 2
- NPファシリテーター交流会の報告・・・ P 3
- ノーバディズ・パーフェクトプログラムの評価研究・・・ P 4
- レインボウプログラムに学ぶ・・・ P 5
- 「Infomation」CFRCからのお知らせ・・・ P 6



「本当にそれでいい？」と問い直しを忘れないように・・・

福川須美



今年の秋は雨や台風にたたられて、秋晴れを楽しむ日の少ない日々でした。甚大な台風被害等に見舞われた地域もあります。自然の脅威から逃れられないとはいえ、自然災害への備えをもっと充実する必要があるのではと感じます。

さて、先日保育雑誌に興味深い記事を見つけました。保育現場では幼児期のものの取りっことは珍しくありませんが、その時の保育者の対応が定番とはちょっと違っていたのです。そんな場面で皆さんだったら、どんなふうに子どもたちに対応するでしょうか？

以前ニュージーランドの幼稚園で見かけたのですが、そこは子どもが園に慣れるまで親が付き添ってよいので、ついでに他の子どもたちとも付き合わざるを得ない場面に直面することになります。時には子ども同士のトラブル、おもちゃの取りっこも起こります。その時の初歩的な大人の対応として、まず、子どもひとり一人に取りっこしたことを確認して、気持ちを確かめ、二人ともそのおもちゃを使いたかったことを確かめます。次に二人が欲しいけれど、おもちゃはひとつしかない今、どうすればいい？と問いかけて、こどもから案が出ないときは、初めに使っていた子どもがまず遊んで、その次に使いたい子どもに渡すという案を提示して二人に投げかけて、同意ができれば、本当にそうするかどうかも見守って、約束を守らせる、と張り紙がありました。保護者に初歩的な介入の仕方を説明してあったのです。

ここで、私たちがよくやりそうなことに、「じゃあ、10 数えたら、次は〇〇ちゃんと交替してね」というのがあります。保育雑誌の記事の保育士は、最初におもちゃを使っていた子どもは、このおもちゃで十分遊びたかったかもしれないが「10 数えたらお友達に渡してね」とかなり強制的に約束させられてしまうことになるかもしれない。その気持ちに寄り添えば、簡単に 10 数えたら、、、、と言っていいのかなと疑問を感じ、できるだけ、今遊んでいたい子どもの遊びの継続を保障し、十分遊んだら次に使いたい子どもに渡してねと説明し、待たされる子どもには他の遊びを提示するなど、手立てを尽くしながら待ってもらおうようにしていると言っていました。

子どもひとり一人を尊重するって、なかなか難しいですね。「公平に使うべき」という大人の考えを本当にそれでいい？と検討してみる保育士の姿勢に心を打たれました。「公平に、平等に」はもちろん大切ですが、だからこれは「やらない、やれない」という結論がすぐに出されてしまうこともあります。

「本当にそれでいい？」と問い直すことも忘れないようにしたいと思います。



主催：一般財団 児童健全育成推進財団（厚労省委託事業）

「目からうろこの一歳までのコミュニケーション：愛着を育てる“人育ち唄”」

9月13日国立オリンピック記念青少年センターで厚生労働省子育て支援課長等をお迎えして『遊びのマルシェ』が開催されました。児童館の遊びの質を上げるべく沖縄から北海道までの24カ所の児童館・児童センターが実践を全国の児童館・放課後児童クラブの職員に伝授する会です。児童館以外の参加は、本会だけです。東京都児童館連絡協議会から都内の児童館への「出前講座」を受託している関係で、連絡協議会との共同で、ブースと2回のワークショップ「0歳児の愛着を育てる人育ち唄」を担当しました。

「遊びのマルシェ」の募集ちらし



プレゼンテーションと赤ちゃん人形を使っての乳児親子に伝える時の模擬実践をしました。(人形はこの時のために購入して下さいました！)

「人育ち唄」講座のキーワードは『観る』ことです。“赤ちゃんが親を観る” “親は赤ちゃんの様子を観て感じ取りながら待つ” そして、“支援者は親と子の様子を観る” ことです。『観る』ことができるようになると、一方通行でない双方向の親子のコミュニケーションになります。この双方向のかかわりが、親子関係一愛着を形成する時に欠かせません。赤ちゃんの「観る」力が発揮されるには、赤ちゃんの受け取れる内容やゆったり感が必要などなどのポイントを伝えながら、40名ほどの先生方に学んで頂きました。

その他にも、たくさんの熱心な先生方がブースを訪れ、説明や映像に頷いていました。乳児に何をしたらよいのか先生方が模索している様子がわかりました。

児童館は子どもに対応の最前線です。そこに乳児の親子の利用が増え、今まで以上に大切な役目が増えます。幼児期の遊びをしていたのでは、愛着形成は難しいことを「出前講座」でも伝え続けてきました。

千葉県佐倉市の児童センターからのエントリーを受け、12月に児童センターに出向いて先生方の実践を援助します。



赤ちゃん人形で模擬実践

広がれー！親子のコミュニケーション!!



2017年7月23日、トポスの会との共催で小規模ながらNPファシリテーター交流会が王子事務所で開かれました。2015年6月以来、2回目の開催でした。会場の都合等により、多くの方にご案内ができないままに当日を迎えてしまったことをまずお詫びいたします。参加いただけたのはトレーナーを含めて25名、岐阜県美濃市、長野県茅野市からも駆けつけていただきました。

当日の報告はトポス通信No.52に詳しいのですが、NPに倣ってメンバーのニーズから以下の①～③をテーマに4つのグループで話し合いました。それぞれの記録からその概略を紹介します。

グループ① NP実践にこぎつけるまで・・・3項目について

「主催者探し」では、行政と組む場合は6回セッションの実施につなげるのが難しいことが多いが、K市では虐待予防担当課と連携した実践ができています。プログラムの意義を担当課と継続的に協議していくことが大切。「リクルート」については、保健センター等に声をかけてもなかなか参加申し込みに繋がらない状況がある。プログラムを必要とする人に届けるには関係機関の担当者との顔の見える関係づくりが大切、ということでした。「実践の仲間探し」ではファシリテーター同士の仲間づくり、身近に声を掛け合い交流できる関係が欲しい。養成講座修了者5名で団体を作り活動を始めたことが社協などへのPR活動も展開しやすく、周囲からの信頼も得やすいという事例も出されました。こうした話し合いを通して、ファシリテーター自身も支え合う関係の中でエンパワーされていくことや、組織として活動する意義を再認識する機会となりました。

グループ② 実習生とのコ・ファシリテーション・・・4項目を経験学習サイクルで

計画段階からの「打合せ時間確保の難しさ」について、実習を依頼する時点から計画やセッション後のカンファレンスに時間がかかることを伝えておく必要性が指摘されました。

打ち合わせが「主導的になってしまう」ことについて、実習生はサブでよいと考える人が多い、基本的なことも理解していないので任せがたい、何からどのように伝えるかなどが悩ましい。経験の差は当然あるので、押し付けるのではなく思いを伝えるのは主導ではない、人として対等な関係であることが大事。コ・ファシリテーターはメインとサブの関係ではないことを養成講座でさらに強調してもらおう。NPの目的、ESPなどの基本を再確認し合う、実習生の考えや良かったところも尊重しながら必要なことを伝える、お互いに学び合い協力して良いプログラムにしたい気持ちを伝える、などが提案されました。

「セッション中の声掛け」では、時間管理が難しい、誘導などが見えてきたときの声掛けについて、事前に話し合い、起こりうることについて共有して対応も決めておく、などが話されました。

「その他」では、パソコンを使えることがファシリテーターの必須条件にできないか、検討してほしい。実習生同士で実施する場合はサポーターがつくと良いのでは、の提案がありました。

(注：NPセッションにはファシリテーター2人しか入れません。サポートについては、先輩ファシリテーターなどによるセッション前後のスーパービジョンをお願いしています。)

グループ③④ プログラムの進行・ファシリテーション・・・多様な課題で

両グループとも広域から集まった新人からベテランまでの多様なメンバーで、セッション中に起きる実に多様な課題について熱心に話し合いが行われました。参加者の希望に沿って柔軟に対応した時に得られた手ごたえ、何回やっても自分自身の勉強になる、不安になっていることを聴く、ファシリテーターの価値観を横に置いて参加者の意見を聴くことの大切さを学んだなど、参加者とともに学ぶプログラムであるとのNPの基本に触れ、これからは子育て中の親に必要なプログラムであるとの思いで一致しました。

以上、半日の小さな交流会でしたが、ファシリテーター同士が集い、支え・学び合うことの意義が確認された会でもありました。来年もより大きな規模で開催したいと運営委員会を立ち上げ、以下の日程で会場を押さえることができました。今から日程を確保していただき、希望やアイデアなどを寄せていただければ幸いです。

2018年全国NPファシリテーター研修交流会 開催決定

日時 2018年9月29日(土) 11:00～16:30

会場 北区 北とぴあ スカイホール





ノーバディズ・パーフェクト(NP)プログラムは、1980年代、カナダ公衆健康機関と大西洋4州健康局により、誕生から5歳までの、子育て上何らかのリスクを抱えた親を対象として開発され、連邦政府によって1987年来全国で実施されてきた最も評判のよい予防型親支援プログラムです。

プログラムは、幼い子どもたちの健康を維持し増進する親の力を向上させることを目標とし、親としての自信と自己像を高めそのスキルを改善すること、プログラム終了後も親同士の自助と相互の支えあいを増進することを目的として実施されてきました。NPプログラムの効果については以前から報告されてきましたが、2009年にアルバータ大学が比較群を含めた初めての全国的研究を行っているため、その結果を一部紹介します。

研究は、NPの効果として、NPが目的とした親としての自信や力を高めるという変化をNP参加者にもたらしたことを立証しました。NP参加者の親としての肯定的行動、肯定的なしつけ法が増え、その変化はプログラム終了時より6か月後の追跡時に有意に見られました。親たちはまた、NPに参加後の子どもとの肯定的相互作用の頻度が優位に増加したと報告、比較群では親子のやり取りに変化はなく、こうした変化はNP参加によるものといえます。

また、親のストレスを乗り切る力、親としての課題解決力を増す上でも効果的で、ストレスと社会的支援への対処についての変化は、6か月を超えて維持しています。比較群はNP参加者が持っていたいずれの変化もなく、最終的にNPに参加することが、子育てにおける親の自信を高める、地域資源についての知識を増すことに貢献しているといえます。

一部の親との面接によれば、親のコメントは圧倒的に肯定的で、プログラムが肯定的変化を自分たちにもたらしたとし、孤独を感じず、自身の子育てスタイルをより受け入れていたと報告しました。子どもたちのニーズ、効果的なしつけ、子どもの安全確保と地域資源についての知識を得たこと、ファシリテーターが安全で支援的な環境をつくり、そこで親として認められエンパワーされたと感じたと報告しています。

以上はカナダにおけるNP評価概略ですが、日本の実践の中でも多くのファシリテーターが感じているところです。親の力を信頼し親自身が育ち合うことを後押しするNPプログラムが、子どもたちの健やかな育ちに直結するに違いないと確信しています。

Canadian Association of Family Resource Programs (FRP カナダ) 2009

By B. J. Skrypnek and J. Charchun アルバータ大学 人間環境学科より





レインボウプログラムに学ぶ

—感情・気持ちに焦点をあてる—

櫃田 紋子



いま子どもをめぐる社会環境は急激に変化しています。そうした中で親の離婚・虐待・災害等々に因って心の拠りどころを喪失し、深い悲しみを抱えたまま辛いときを生きている子どもたちが増え続けています。一方で子どもたちの周りには様々なネットコミュニケーション・ツールが浸透し、人と人のつながり方に大きな影響を与えており、子どもたちの心が見えにくくなってきました。以下に紹介するのはレインボウの導入・普及に努めてこられた伊志嶺氏の書かれたものです。気持ちを表すこと、表せる環境のあることの大切さに改めて気づかせてくれることでしょうか。

アメリカのシカゴで、離婚や死別などの悲しみや喪失体験をした子どもや大人のためのプログラム「レインボウ」を創設したスージー・マルタは、気持ちや感情に正直であることをすすめています。深い悲しみを心の底に閉じ込めておくのではなく、それを理解してくれる人、同じ体験をした人に話すことで心の外に出してあげることがすすめます。

子どもの体は小さくても、もっている感情のサイズは大人と同じ、心のケアをしておくことが大切で、将来の問題を予防することになる、という思いで1980年代初めにレインボウプログラムを創り上げたのです。2001年9月11日のニューヨークの事件以来はとくにこのプログラムへの要請が高まっていると聞きます。

プログラムは同じような喪失体験をした子ども同士のグループに、ファシリテーターが付き添ってつらい気持ちを表現していくことを助け、新しい家族環境の中で再出発していけるようにそっと背中を押す役割をとりまします。プログラムに参加するまでそんな気持ちを表せない子どもたちが、参加してまもなく表出するのが怒りの気持ちです。なぜそんな喪失が自分に起こったのか、それを引き起こした人への怒りなどが噴出してくることもあります。これをプログラムがつくる安全な枠組みの中で、わかり合える仲間たちと、ファシリテーターの立会いのもとに表していくのです。プログラムの前半は、感情を表すことがテーマとなります。

□感情に名前をつける

スージー・マルタは、感情とはちょうど髪の毛や目のように、また呼吸をするのと同じくらい私たちの自然の一部で、本質的なものだといいます。誰もがたくさんの感情をもっていて、それが正しいとか間違っているとか、よいか悪いかではなく、ただ在るということを理解することが大切なのだそうです。子どもたちが正直に自分の気持ちを表現し、人に伝えるには、その言葉をもつことが必要になります。そのために、自分の気持ちを表現するための、感情を表す言葉をもつことをすすめています。感情に名前をつけるとは、それぞれの気持ち、感情を表す語彙を豊かにしていくことです。

マルタは、私たちの自然な基本的感情として、愛、幸せ、怖れ、悲しみ、怒りの五つをあげています。大きく分けて、愛と幸せはうれしい方の感情で、強さや幸せなど肯定的な充実感、つまり快の感情を与えてくれるものです。もう一つの苦しい方の感情は、消耗した感じ、空虚で孤独な感じ、つまり不快な感情を与えるものだといいます。しかし苦しい感情は不快感を感じさせる一方、何かたいへんなことが起こるかもしれない、注意が必要だということのメッセージなのです。さて、私たちはこれらの感情を表す語彙をどのくらいもっているでしょうか。

(伊志嶺美津子編著 子どもと親を幸せにする保育者・支援者のための「保育カウンセリング講座」フレーベル館 2007 pp183・184)





1. NP 体験プログラム オリエンテーション 年4回

第4回 2018/1/14(日) **募集中** 時間は、13:00～16:00、会場はCFRC。

受講料 2,500 円(テキスト代 500 円含)。定員 20 名。申込は、開講 2～1 か月前にCFRC 事務局まで。

2. NP ファシリテーター養成講座 年4回

(1)通常講座 **募集中** 第4期 2018/2/17(土),18(日),24(土),25(日) 講師：福川須美

3. NP アフタープログラム 年3回

※養成講座終了後、NP プログラム未実施の方は、3年ごと(推奨2年)に受講ください

第3回 2018/2/4(日) **募集中** 時間は、フォローアップ研修 9:30～12:30、ステップアップ研修 13:30～16:30

会場はCFRC。受講料各 3,000 円。定員各 20 名。

申込は、開講 2～1 か月前にCFRC 事務局まで。NP プログラム実施にブランク(～2年間)のある方は、特に受講をお勧めします。

4. 子ども家庭リソースセンター「NPの会会員」について

NP ファシリテーター養成講座修了者は、全員加入です。今年度 2017 年度年会費未納入の方は、お早めにお手続きをお願いいたします。年会費は、1,000 円です。会員期間は4月から翌年3月までで、年度更新になります。会は、NPの会会員へのサポートを強化、質問・相談に随時応じます。入会手続きは、CFRC 事務局まで。

※転居ほか、住所や連絡先等が変わる際には、CFRC 事務局まで必ずご連絡願います。

5. 支援者対象研修 ①0歳児の愛着を育てる『コミュニケーション・スキル』講座 ②『最近の子育て事情と保護者への対応』

①2018/1/14(日) 9:30～11:45 参加費 2,500 円 会場：北とびあ7階第一研修室(王子駅徒歩2分)講師：永田陽子

②2018/1/14(日) 13:30～16:00 参加費 2,500 円 会場：北とびあ5階AB室(王子駅徒歩2分)講師：永田陽子

受講者 **募集中**。一日受講は割引あり。詳細はホームページ、事務局でご確認ください。

6. レインボウ・ファシリテーター (A) & コーディネーター (B) 養成講座 ～喪失体験をのりこえる子どもたちへの援助～

(1)レインボウ・ファシリテーター養成講座

2018年3月3日(土)10:00～17:00 会場：横浜「こもれび」 受講料：10,000 円 テキスト代：5,000 円

(2)レインボウ・コーディネーター養成講座(レインボウ・ファシリテーター有資格者)

2018年3月4日(日)13:00～16:00 会場：横浜「こもれび」 受講料：5,000 円 テキスト代：1,000 円

(1)(2)共に講師は榎田紋子 伊志嶺美津子 どちらも定員は12名

(3)シルバーライニング・ファシリテーター養成講座・・・状況に応じて随時開催

(4)出張養成講座(児童養護施設向け講座、一般向け講座) プログラムを実施予定のあるサイト(実施先)の要望に応じて随時開催
実施先が未定の場合、受講希望者が6名以上に対して随時開催

●トポスの会(自主的なファシリテーターの学びの会)

2017年12月10日(日)会場はCFRC。12月以降は3月11日(日)。当センターのNPファシリテーター養成講座修了者は、どなたでも参加できます。(当日会費会員300円、非会員500円)。トポスの会に関するお問い合わせは、CFRC 事務局まで。

●寄付金のお願い

【寄付金お振り込み先】 ゆうちょ銀行 口座記号・番号 00130-4-651522
加入者名：NPO子ども家庭リソースセンター

～ ご質問、お問い合わせ等は、下記のCFRC事務局まで ～

NPO 法人子ども家庭リソースセンター (略称：CFRC)

○所在地 〒114-0002 東京都北区王子 2-18-12 ドムス王子 1階 ○TEL/FAX 03-6755-2855

○E-mail info@kodomokatei.com ○URL http://kodomokatei.com/

○交通機関 JR線王子駅 北口改札から徒歩8分、地下鉄南北線王子駅 5番出口から徒歩7分

編集後記 おぼつかない足取りのおたより編集者です。内容は、なるほどと共感できる記事もあり、充実していますので、ぜひお読みください。CFRCの事業にご理解、ご協力を頂ければ嬉しいです。

編集・発行：NPO 法人子ども家庭リソースセンター 発行日：2017年11月30日

